

パブリック・コメント手続（意見募集）結果

横須賀市基本構想・基本計画の策定について

【公表日】

令和3年（2021年）11月29日（月）

【お問い合わせ先】

経営企画部 都市戦略課

電話 046-822-9784（直通）

横 須 賀 市

「横須賀市基本構想・基本計画の策定について」に対するパブリック・コメント手続（意見募集）の結果について

1 意見募集期間

令和3年（2021年）7月16日（金）から8月10日（火）まで

2 意見の提出者数及び意見の件数

(1) 意見の提出者数：17人

(2) 意見の件数：147件

■ 意見の提出方法

提出方法	人数
直接持参	1人
郵送	0人
ファクス	0人
電子メール	16人
合計	17人

■ 意見の内訳

項目	件数
全般に関する意見	14件
第1章 市の未来像	26件
第2章 2030年の展望	15件
第3章 分野別未来像	79件
第4章 市政運営の基本姿勢	7件
第5章 YOKOSUKAビジョン2030について	0件
その他の意見	6件
合計	147件

3 意見の概要及び市の考え方

意見に基づき計画案を修正するものについては、「市の考え方」欄を網かけ
 にしています。(対象意見数:33)

No.	意見		市の考え方
	意見の概要		
	該当箇所 章	頁	
1	全般	-	<div style="background-color: yellow;"> <p>難しい言葉については、()書きで解説するのではなく、用語集を掲載した方がよいと思う。</p> <p>グリーンインフラ、ブルーカーボン等、聞きなれない言葉が多く出てくる。一方で、未来に向けては当たり前の言葉になっていくのだと思うので、こういった言葉も使っていきべきだと思うが、巻末などに言葉の解説を入れてほしい。</p> <p>例えばp16に記載のある「society5.0」とはどのような意味なのか、簡単な用語解説があるとわかりやすい。</p> <p>片仮名や造語の多用があり、意味が分からない、または取り違えてしまう懸念がある。言い換えや説明が必要。</p> </div>
2	全般	-	
3	全般	-	
4	全般	-	
5	全般	-	貴重なご意見として承ります。
6	全般	-	貴重なご意見として承ります。
7	全般	-	<div style="background-color: yellow;"> <p>テクノロジーに関する語句の使い方に統一感がなく、場当たりに使われているように見える。使い方に統一感を持たせた方がよいのではないか。 (例)「AI やIoT、ロボットなど最先端のテクノロジー」、「AI、IoT、ロボット等」「先端技術」、「新しい情報技術(ICT・AI)」、「ICT、AI等」、「AI 等先端技術やビッグデータ」</p> </div>
8	全般	-	<p>意見聴取の経過を見ると若者の意見が多く取り入れられすぎではないか。市を構成しているのは若者ばかりではないことを忘れないでほしいと思う。</p> <p>市民ワークショップでの意見や、幅広い年齢層のメンバーで構成される総合計画審議会での議論の結果、また、市民代表である10名の議員で構成する特別委員会での議論の結果を踏まえて作成しており、若者だけの意見で作成したものではありません。老若男女問わず幅広い意見をもとに作成しております。</p> <p>また、小学生、中学生、高校生の意見を個別に伺ったのは、選挙により意思表示ができない年齢層の意見を計画に反映することも、目的の一つとしてございます。</p>

No.	意見		市の考え方
	意見の概要		
	該当箇所 章	頁	
9	全般	-	<p>全体を通して「リモートワーク」という言葉が多く出てくるが、リモートワークが出来ないエッセンシャルワーカーの方々への配慮は、どのようにするのか。また、リモートワークは本当に定着するか、まだ言い切れないのではないのか。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により求められた、新しい生活様式の中で進展したものの一つがリモートワークであると認識しています。未来のことは言い切ることはできませんが、現時点では、アフターコロナの世界でも一定程度定着する前提で考えています。</p> <p>また、それぞれの分野別未来像の中では、エッセンシャルワーカーの方々に対しての政策も数多く記載しています。</p>
10	全般	-	<p>2030年の未来像ということで、今までの行政計画に縛られない、表現や内容が見受けられるが、まだまだ近視眼的と言わざるを得ない。正直言って、日本人は平和ボケしている。地球規模の気候変動や、本当の最先端で起きているテクノロジーの進歩は、横須賀市民の共感や理解とは別次元のスピードで起きている。本当にそうなのか、達成できるのかという範囲を超えたビジョンの策定が今こそ必要ではないのか。</p> <p>近視眼的な計画とならないように、本計画は、2030年の未来を見据えたバックキャストिंगの手法を取り入れています。一方で、市民の皆様への共感や理解は絶対に必要であると考え、多くの市民の方々の意見を伺いながら策定してまいりました。この計画の形は適切であると考えています。</p>
11	全般	-	<p>基本構想・基本計画の随所で「つながり」が強調されているが、とにかくつながりを大事にしていけばなんとかなるといった楽観性に対して少々不安を覚える。</p> <p>もちろん地域の中での助け合いにより住民の互いの便益につながりうるということは一切否定するつもりはないが、一方でつながりに頼りすぎることによってヤングケアラーの問題のようにつながりを構成する人に過剰な負荷がかかったり、つながりの外に対する排除意識が働くという側面も存在し、つながりに寄りかかりすぎることには限界があることも確かだと考える。つながりに対してよりフラットな見方をした基本構想・基本計画となることを望む。</p> <p>つながり、近助、共助といった考えを、計画全体を通して、強調していることはご意見の通りです。</p> <p>当然、他者とどの程度のかつなかりを求めるかは、個人の自由ですが、今後の市の財政状況、また住民自治の観点からも、まちづくりや福祉等においてつながりの形成が重要な課題だという認識です。</p> <p>つながりを大事にしていれば何とかできるという楽観を持っているというわけではなく、培ってきたが失われつつあるつながりを改めて評価し、再構築しなければ、地域が立ち行かなくなるという、危機感のもと、つながりを強調しています。つながることによる負担も考慮に入れつつ、時流に合った方法でつながりの形成を促す政策に取り組めます。</p>
12	全般	-	<p>随所でリモートワークが施策と絡めて取り上げられているが、現在の新型コロナウイルスの感染状況がこのまま続くという前提で近視眼的に書かれているのではないかと懸念を覚える。1年後にはワクチンも行き渡っていることが予想されるし、基本計画・基本構想の期限である8年後まで、本当にリモートワークが現在と同じレベルで主流にあるのか再検討して欲しい。</p> <p>ご意見の通り、新型コロナウイルスがリモートワークの普及のきっかけとなり、また、今後の感染状況等を正確に予測することは難しいと思われます。</p> <p>一方、新型コロナウイルスの感染状況に関わらず、職種等によっては場所を選ばず仕事ができるようになっていたり、働き方、暮らし方や住環境に対する意識の変化が生まれており、それを踏まえたまちづくりが必要であると考えます。</p>
13	全般	-	<p>今回策定された「横須賀市基本構想・基本計画」につきまして、賛同致します。</p> <p>貴重なご意見として承ります。</p>
14	全般	-	<p>文字のポイントが小さくて読みにくい。</p> <p>ご意見は、今後の冊子のデザインの検討において参考にさせていただきます。</p>
15	1	全般	<p>市の未来像や、未来像の根底に流れる思いについては、市の姿勢が現れていて、非常に分かりやすい。堅苦しくなく、読みやすい。この未来像に向けて、根底に流れる思いを大切にして、変化に対応し進んでいきたいと思う。</p> <p>貴重なご意見として承ります。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
16	1	全般	<p>全体的に意味が曖昧で主観的である。もっとわかりやすく直して欲しい。文が長く、体言止めのカジュアルな文章が続き、信頼感がない。文章を直していただきたい。</p> <p>また、市の未来像が「変化を力に進むまち。横須賀市」というのはふさわしくないと思う。「市民みんなで次の歴史を作る」というような表現を希望する。</p>	<p>従前の計画にとらわれず、分かりやすい計画にすることを心掛けて作成をまいりました。1章全般についても、従前の計画とは、表現方法や、文体は異なりますが、信頼感を持った計画となるように、引き続き心掛けていきます。</p> <p>また、このような社会情勢の中では、「変化を力に進むまち。横須賀市」という未来像はふさわしいと考えています。</p>
17	1	全般	<p>テクノロジーの活用と住民参加を推進すれば、市役所も市議会もいらなくなる。それぐらいの覚悟を行政、議会、市民が持つべきではないか。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
18	1	全般	<p>パブリック・コメントに際し、30歳未満に意見を聞いたところ、「高齢化が進行していること」「旧体制的で若者の意見が取り入れられない環境であること」「市政に変革が起きにくいこと」などが、横須賀の現状に対し不満に思うこととして挙げられた。これが若者の認識している現状なので、若者の社会参加を促すためにもぜひ30歳未満の声に耳を傾けてほしい。</p>	<p>横須賀市が直面している課題や社会状況を鑑み、変革が必要だという意識から「変化を力に進むまち。横須賀市」という未来像を掲げています。</p> <p>この変化を力に進むというのは、横須賀市としての姿勢であるとともに、若い方を含めた市民の皆様とともに達成するものであるという認識のもと、市民の皆様の声に耳を傾け、市政運営を行います。</p>
19	1	全般	<p>若い人が横須賀に住み続けたいと思うようなまちづくりをしていくと明言してほしい。</p> <p>少子高齢化でこれからますます若者の数は減っていく上に、他市や他県への転出率も高い。若者がなぜ横須賀市から転出していくのかを聞いて、対策するべきだと思う。私自身、横須賀市にはずっと住み続けたいとは正直思っていないし、同じように考える若い人は周りに多い。それは、教育や就職の観点から選択肢が少なく、他のところうつる方が魅力的に感じるからである。若者が転出する理由を聞いて、若い人が横須賀に住み続けたいと思うように変えていくべきだと考える。</p> <p>また、この基本構想・基本計画全体を通して「若者」という言葉が出てくるのは、p40の「横須賀の若者が地元企業の魅力や働くことの魅力について知る機会をつくれます。」だけである。横須賀のこれからを担うのは若い世代である以上、若者に対して横須賀を魅力的だと思ってもらう機会や施策をもっと増やすべきである。このままだと横須賀の外に若い人たちが出ていってしまうという危機感を今一度持って、横須賀をより魅力的な地域にしてみたい。</p>	<p>若者も含めて、横須賀にかかわる方々が住みたい、住み続けたいと思う、住み続けられるまちづくりを目指しています。</p> <p>また、人生100年時代の中では、横須賀を支えていくのは、若者も含め、老若男女問わず全員であるという意識を持っていく必要があると考えています。</p> <p>また、若者(主に小中学生・高校生アンケート、中高生ワークショップ)の意見を基に作成した、未来の物語で示された未来を理想として、取り組んでいきたいと考えています。</p>
20	1	3	<p>「1 市の未来像」</p> <p>今までは、横須賀市の分野ごとの計画は、「国際海の手文化都市」を目指していくなっていたが、今後は、「変化を力に進むまち。横須賀市」を目指していくのか。福祉、観光、環境など、横須賀市のすべての計画において、変化を力に進むことを意識して、その内容がつけられるということか。また、それぞれの分野別計画に、その分野において、具体的にどのようなようにして、変化を力に変えるのか、その内容は示されるのか。</p>	<p>ご意見のとおり、市の未来像は、「国際海の手文化都市」から、「変化を力に進むまち。横須賀市」に変わり、その未来像を意識して、それぞれの分野の施策にも取り組んでまいります。</p> <p>しかし、「変化を力に進む」ことを、分野別計画において示すのか、または、具体的施策立案等の際に意識して取り組んでいくのかは、分野によって異なると考えます。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
21	1	3	「1 市の未来像」 「横須賀製鉄所(造船所)」だけ、前後のレベル感を見ても具体的すぎる。その意図は残しつつも改めた方がよいと思う。	ご意見を受け、「開国期を彩り近代文明発祥の歴史をつくった横須賀製鉄所(造船所)」を、「開国期を彩り、近代文明の礎を築いた歴史」と修正します。
22	1	3	「1 市の未来像」 「開国期を彩り近代文明発祥の歴史をつくった横須賀製鉄所(造船所)」について、前後の文脈からしても、このパートだけ、かなり具体的で限定的であると感じる。 例えば「開国期を彩り、近代文明の礎を築いた歴史」とすると、横須賀製鉄所や造船所を含めて幅広い歴史をイメージできると考える。	
23	1	3	「1 市の未来像」 「多くの外国人の居住や、外国人との交流が生み出す国際的な雰囲気」「集積する、先端的な研究開発機関」「国際海の手文化都市」など、横須賀市の魅力をあげているが、実情を美化し過ぎている。ドブ板通りのレトロな雰囲気、YRPの可能性、歴史を感じる海の手都市など、等身大で記述してほしい。	ここでは、実情を美化したのではなく、現状の基本構想で示している都市像である「国際海の手文化都市」としてこれまで育んできたまちの魅力を示しています。
24	1	3	「1 市の未来像」 2ブロック目の「様々な分野でのテクノロジーの劇的な進歩」は、ネガティブな要素なのか、明確に記述してほしい。	2ブロック目は、ネガティブな要素のみを示したのではなく、社会情勢の変化の代表的なものについて示したものです。
25	1	3	「1 市の未来像」 3ブロック目の「私たちは、心と知恵と力を合わせ」とあるが、心は合わせる必要はないのではないか。	より豊かな、そしてよりあたたかいまちにしていくには、心も合わせ進んでいく必要があると考えています。
26	1	3	「1 市の未来像」 3ブロック目「この変化を受け入れ」とあるが、変化を受け入れるのは個人の問題である。	個人の問題でもあることは認識していますが、この激しい時代の変化の中では、それを受け入れ、立ち向かう必要があることをここでは示しています。
27	1	3	「1 市の未来像」 4ブロック目「変化には不安が付きまとうもので、一步を踏み出すには勇気が必要です。」については、一步を踏み出すのはケースバイケースなので、この文は不要ではないか。 また、5ブロック目の「一步を踏み出す」とはどういった意味でしょうか。	ここでは変化への不安の中で、一步を踏み出すには勇気が必要であり、5ブロック目に、その不安を和らげ、勇気のもととなる内容について示しています。
28	1	3	「1 市の未来像」 7ブロック目「変化を追い風にして」がわかりづらい。	ここでは前段までで示してきた「変化」を追い風にして、希望ある豊かな横須賀を目指し進んでいくことを示しています。
29	1	3	「1 市の未来像」 抽象的である。 社会の脆弱性という現実的な課題を解決し、その先に拓ける展望として未来像があるのではないか。	従前の計画にとらわれず、分かりやすい計画にすることを心掛けて作成をいたしました。1章全般についても、従前の計画とは、表現方法や、文体は異なりますが、信頼感のある計画となるように、引き続き心掛けていきます。 なお、未来像策定にあたって前提とした課題は、第2章に示しております。
30	1	3	「1 市の未来像」 「変化を力に進むまち。横須賀市」というのは、未来への希望と危機感が錯綜しており。ある意味、今の横須賀市をよく表しているかと思う。一方、横須賀市民は変化が苦手という話もよく聞く。計画策定後、そのような横須賀市民にこの未来像が浸透していくことを望む。	貴重なご意見として承ります。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
31	1	3	「1 市の未来像」 「人と人との絆、助け合い、人情」という言葉は、基本構想にはそぐわない言葉だと思います。	この言葉は、総合計画審議会等の意見をもとにしたものであり、横須賀の特徴を表す適切な表現であると考えています。
32	1	3	「1 市の未来像」 未来像の文章は、トップに「急速に進む人口減少、少子高齢化、様々なテクノロジー」を掲げ、次に横須賀の地形などの良さを続けたらどうか。	未来像の文章構成では、横須賀市が「国際海の手文化」として育んできたまちの魅力を再認識した上で、変化の激しい社会情勢に目を向けるよう示しています。
33	1	4	「1 市の未来像」 「まち」の未来に示されている、「人と自然が共生する“まち”へ」について、内容を解説する文章では、人と自然だけでなく、多様な人同士の共生のことが書かれていると思うが、そうなるタイトルと合わないのではないかな。	ご意見を受け、「人と自然が共生する“まち”へ」を、「人も自然も共生する“まち”へ」と修正します。
34	1	4	「1 市の未来像」 「しごとの未来」が労働者や求職者に響くのか、疑問がある。	ここでは、産業振興、観光・文化、海洋を「しごと」として1つのカテゴリー分けをして、その2030年の未来の姿を示したものであり、多くの方に理解頂ける内容であると考えています。 また、産業振興についてのより具体的な未来像については、p39、p40に示しています。
35	1	4	「1 市の未来像」 一人ひとりが自分らしく幸せでいられることを「基本的人権」と書かないのはなぜか。	誰にでも分かりやすい表現を目指しました。
36	1	5	「2 未来像の根底に流れる思い」 精神的な豊かさのためには物質的な豊かさが必要になるのではないかな。	物質的豊かさも大切であり、それを否定するものではありませんが、横須賀市では、精神的な豊かさがより大切だと考えています。
37	1	5	「2 未来像の根底に流れる思い」 「精神的な豊かさ」は、どのような基準で豊かさをはかるのでしょうか。 心の余裕や自信が持ちにくい現代社会のなか、ゆとりある暮らしは正直、困難です。ひと昔からも、地域のつながりなどの「豊かさ」はありましたが、それとの違いが良く見えてこないです。 多様な価値観は必要だと思います。	横須賀市が大切だと考える精神的な豊かさとは、心の余裕や自信などです。それををはかる基準はありません。精神的な豊かさを高めるためには、多様な価値観を尊重し、一人ひとりの多様な生き方を支えられるような社会づくりが必要だと考えています。
38	1	5	「2 未来像の根底に流れる思い」 (2)「主役は人である」ことを意識し続けます。 に書かれている内容が分かりにくい。	ここでは、精神的な豊かさを高めるために、テクノロジーの活用は必要であるが主役は人であること、この考えのもと「誰も一人にさせない」という精神を大切にしていけることを示しています。
39	1	5	「2 未来像の根底に流れる思い」 物質的な豊かさと精神的な豊かさを独立した概念でとらえているが、それは一つの考え方かも知れないが特異な考え方であると思う。どっちがより大切であるというような関係ではない。	物質的豊かさも大切であり、それを否定するものではありませんが、横須賀市では、精神的な豊かさがより大切だと考えています。
40	1	5	「2 未来像の根底に流れる思い」 「誰も1人にさせない」という精神をみんなが持てば、「誰も1人にさせない」社会ができると考えているようですが、精神だけの問題でしょうか。	一人ひとりの多様な生き方を支えられるような社会をつくるためには、誰も一人にさせないという精神とともに、さまざまな新しいテクノロジーの活用も必要であると考えています。
41	2	全般	今まで知らなかったこと、今後、自分自身も意識していかないとならない、横須賀に関連することが端的に書かれており、分かりやすい。非常に勉強になった。	貴重なご意見として承ります。

No.	意見		市の考え方
	意見の概要		
	該当箇所 章	頁	
42	2	7	「1 市の現状と課題」 「高齢者一人を現役世代何人で支えるか」という発想は誤解を招く表現だと思う。確かに高齢化すると支えられることが多くなるが、全てではない。 こちらの図は、活力ある高齢者の方々のご活躍を含めて捉えた際に、年金や医療・介護などの社会保障給付費を支える生産年齢人口の考え方が変化することを示しています。 現在の定義によると生産年齢人口は「15歳～64歳」とされておりますが、ご指摘のとおり、65歳以上の高齢者であっても就労等で活躍し続けている方が多くいらっしゃいますので、人生100年時代に向け、高齢者の方々を含めて、いつまでも健康で、活躍できる場を作っていくことが必要だと考えています。
43	2	7	「1 市の現状と課題」 ここに財政状況の掲載がないのはなぜか。 「(2011～2021)基本計画」には、2001～2009年度の経常収支比率・市債残高の推移、2003～2009年度の財政調整基金残高の推移が掲載されている。生産年齢を上げていく提案をしていくためには、財政状況や市債残高の現状を示さなくては説得力に欠けると思う。 ご意見を受け、市の財政状況については「6章 資料編」等に掲載します。
44	2	10	「1 市の現状と課題」 「将来推計人口をベースとした、高齢者一人を現役世代何人で支えるかの考察」によると、70歳以上の高齢者も働く必要がある社会になると思うし、そのための政策も必要であると思う。 しかし、産業振興の分別未来像、政策方針で、そのことが一切触れられていないのは疑問があり、記載すべきである。 ご意見を受け、「第3章 分野別未来像」の産業振興分野の政策方針2-④に「働く意欲のある高齢者が社会で活躍できるよう、国や関係機関と連携して、取り組んでいきます。」と記載します。
45	2	7～11	「1 市の現状と課題」 データがわかりやすく、良いと思う。 貴重なご意見として承ります。
46	2	12～16	「2 今後予測される社会生活・潮流の変化」 「～となる。」と、「～となる可能性がある。」と表現が混在しているが、ここは、あくまで現時点での予測の記載であり、全てが可能性の話なので、予測として「～となる。」と表現を統一しても良いのではないかと。 ご意見を受け、言い切りの形に表現を統一します。
47	2	12～16	「2 今後予測される社会生活・潮流の変化」 地球規模の予想から個人差のある予想まで脈絡なく列挙されていてわかりにくい。 ここでは、社会生活・潮流の変化を、(1)ひと、(2)まち、(3)しごと、(4)環境、(5)市政運営と、わかりやすくなるように、カテゴリーに分けて、列挙しています。
48	2	12～16	「2 今後予測される社会生活・潮流の変化」 書かれている内容に疑問がある。 ここでは、書籍などの情報をもとに、新型コロナウイルスの影響や、AI、IoT等テクノロジーの進化などにより、今後予測される日本の社会生活・潮流の変化を示しました。あくまで、現時点での予測です。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
49	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 「将来を見通すことが困難な厳しい状況が続くと思われます」とあり、なぜそうなるのかの解明なしに、「そうした時こそ横須賀の未来に向けて「協調と連帯」の精神のもと」と協調と連帯を説いていますが、市民に協調と連帯が欠けていると言うことでしょうか。	ここでは、時代の変化が激しく、将来を見通すのが困難な状況だからこそ、「協調と連帯」の精神がより重要となることを示しています。
50	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 少子化問題と高齢化(長寿化)は別の問題。一緒にすべきでない。科学技術が進歩し、生産力が高まっているのに、市民のくらしは楽にならない、行政のサービスも低下していく心配がある。これは市民サービスのやり過ぎなのだろうか。市民の責任なのだろうか。 先端テクノロジーを導入しても職員の代わりにはならない。必要な導入は否定しないが、過度な導入は、過度な期待はすべきでない。	貴重なご意見として承ります。
51	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 「一つになる」という表現は、多様性が感じられない。	ご意見を受け、「横須賀が一つになって未来に向かう」を、「横須賀が一丸となって未来に向かう」と修正します。
52	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 横須賀が一つになって未来に向かうとあるが意味が分からない。多様性を尊重することが活力の源泉ではないかと思う。	
53	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 市の姿勢、職員の姿勢、市民の責任、事業者の責任を、それぞれわかりやすく書いた方がよい。	2ブロック目から4ブロック目に行政、職員、5ブロック目に、市民、地域団体、事業者の皆さまに未来に向けて求められる姿勢を示しています。ここで市民、事業者の皆さまの「責任」を示すことは考えていません。
54	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢(横須賀が一つになって未来に向かう)」 「行政組織やサービスを～中略～『量から質への転換』を図っていく必要があります。」とあるが、適切な支援や制度を今でも知らない市民が多い。必要な情報を十分に周知する課題があるなかで、量から質への転換を図ることにより、取り残されてしまう市民が心配である。「誰もひとりにさせない」というフレーズが空回りするおそれが生ずるのではないか。	ここでいう量から質への転換は、見込まれる人口規模に合わせて、質を落とすことなく、行政組織やサービスをサイズダウンしていくものです。 適切な支援や制度の周知については、必要なタイミングで必要な情報やサービスが行き届くように、取り組みを進めてまいります。
55	2	17	「3 それぞれの主体に求められる姿勢」 自助共助公助という言葉が自己責任論のように感じてすごく嫌なので消してほしい。そんなことを謳っている市に住みたいと思う若者はいないと思う。仕事や子育てといっぱいいっぱいなのに、さらに助ける相手まで自分でなんとかしないといけないか。市がそこまで言うのは違うと思う。視点に優しさが無いように思う。もっと違う言い方をしてほしい。	まちづくりには、自助、近助、共助、公助のどれもが必要で、公助がすべてでないことは、市民の皆様と共有すべきこととして記載しています。しかし、自己責任というわけではなく、自助、近助、共助を支える仕組みや環境づくりなどは、行政として行っています。
56	3	全般	読みやすい。未来の物語があることによって、未来のまちの姿をイメージした上で分野別未来像を見ると、より具体的にイメージできる。とにかく堅苦しくない部分が良いと思う所である。	貴重なご意見として承ります。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
57	3	全般	最近の企業のパンフレットなどを見ると、SDGsのアイコンをよく見る。記載内容はそのまま、関連するSDGsのアイコンを分野別未来像ごとに、まとめて掲載してはどうか。	記載内容が固まった後に、冊子のデザインを行っていく中で検討します。
58	3	全般	「分野別未来像 政策方針全般」 政策方針案の「政策方針」の文章の語尾に統一感がない。例えば、P24を見ると「充実させていきます」と「充実させます」や「します」と「していきます」などがあるが、統一感を持たせた方がよい。	ご意見を受け、政策方針案の文章の語尾を改めて見直した上で、一部を修正します。
59	3	22・30・38・46	「未来の物語」 未来の物語は不要であると考える。	各分野での2030年の未来をより分かりやすくイメージしてもらうために、未来の物語は必要であると考えます。
60	3	22・30・38・46	「未来の物語」 未来の物語はなぜ、高校生や中学生が作っているのか、自分の年齢でも夢ある未来を描ける。	未来の物語は、小中学生・高校生アンケート、中高生ワークショップでの意見を基に事務局で下案を作成したものを、幅広い年齢の構成員の方々で組織する総合計画審議会や、市民代表である10名の議員で構成する特別委員会で提示し、加筆修正を行い、ブラッシュアップしてきたものです。このため主に小中学生・高校生アンケート、中高生ワークショップでの意見を基にはしていますが、老若男女問わず幅広い意見が入ったものになっていると認識しています。
61	3	23	「分野別未来像 福祉」 誰もが福祉の「受け手」であり「担い手」とあるという表現を見直して欲しい。giveしないとtakeできないのか。重度の障害を持つ人は、担い手になることは難しいと考えられる。	『誰もが福祉の「受け手」であり「担い手」である』のタイトル、また以下の文章も含め、giveしないとtakeできないという表現はしていませんし、その意図もありません。当然、“受け手”になるケースが多い方、“担い手”になるケースが多い方、一人個人においても、状況や時期によって、“受け手”にも“担い手”にもなることを想定しており、そういった様々な事情を抱えた全ての人を社会として支えあっていくものとして、「誰もが福祉社会の一員である」と表現しています。『誰もが福祉の「受け手」であり「担い手」である』というのは、そういった福祉社会を目指す中で、『私は“受け手”でも“担い手”でもない』と思っている方にも福祉社会の一員であると感じて欲しいというメッセージです。
62	3	23	「分野別未来像 福祉」 福祉分野で念頭に置かれている対象について、生活保護や難病、障がいを持つ人など幅を広げて考えて欲しい。現在の記述は高齢者に偏っている印象を受ける。例えば難病の人や障がいを持つ方なども、福祉の対象ではないか。生活保護に関する記述も不足しているので、セーフティネットにも意識を向けて欲しい。	高齢者に偏った意図はありません。「すべての人は生まれながらに「幸せになる権利」を持っています」、「誰もが福祉社会の一員」と明記しております。この理念を大前提に、具体的に生じる課題に対し、分野別計画の策定や事業の実施に取り組みます。
63	3	23	「分野別未来像 福祉」 「意識のバリア」という語について具体的にどのような固定観念、意識なのかかわからないので、説明を入れるべきである。	「意識のバリア」とは前述の通り、福祉が高齢者や障害者などの一部の方に関連するものであるという固定観念のことです。
64	3	23～24	「分野別未来像 福祉」 「幸せになる権利」という表現はとてもいいと思います。 福祉も権利だと思います。誰もが福祉の権利を持っているとお互いに認め合うことが「意識のバリア」を打ち破るのではないのでしょうか。	貴重なご意見として承ります。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
65	3	23	<p>「分野別未来像 福祉」 「適度なおせっかい」の文言の修正を望む。おせっかいという言葉はサービスの主体の視点を過度に強調しており、受け手の望みへの配慮をあまり感じない。少々介入主義的で押し付けがましい表現ではないかという印象を抱く。</p>	<p>ご意見のとおり、「おせっかい」という言葉は、はたらきかける側が良かれと思った行動だとしても受け手が望んでいない場合等に、主にネガティブな表現として用いられる言葉です。しかし、近年問題視されている社会的孤立を防ぐためには、はたらきかける側が、過度に遠慮するのではなく、「おせっかいかもしれない」が声をかけようとする気持ちが重要だと考え、「適度なおせっかい」という表現を用いました。</p> <p>上述の「幸せになる権利」や「意識のバリア」にあわせる形で、文章中に「適度なおせっかいの心」とかぎ括弧を追記することで適度であることを強調いたします。</p> <p>また、一般的な「おせっかい」の意味とは違ったニュアンスも含め使用しているため、ページ下部に解説を記載します。</p>
66	3	23	<p>「分野別未来像 福祉」 「おせっかいから始まる」は、本当の優しさだったらいいが、自己満足のおせっかいに子育てしてから困っている。もっといい表現に変えてほしい。おせっかいするほど余裕のない人も多いのではないか。違うビジョンを示してほしいです。</p>	<p>日本は、世界的にも早く少子高齢化に直面しており、日本の中でも横須賀市は先行的にその状況にあります。そのような状況において、どのようにして福祉サービスを提供していくのか、福祉の環境を整えていくのかということに挑戦的に立ち向かう立場にあることをフロントランナーとして表現しています。</p> <p>横須賀市が他の地域や自治体の参考になるような新しいモデルを作る可能性があることについて、ポジティブにとらえていただけて構いません。</p>
67	3	23	<p>「分野別未来像 福祉」 「少子高齢化のフロントランナー」という表現は、ポジティブなニュアンスに受け取られかねず違和感があるので見直して欲しい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
68	3	23～24	<p>「分野別未来像 福祉」 これからの指針になる、良い計画だと思う。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
69	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 「教わることと教えること」というフレーズなどについて、子供の客体性のみが表現されているように感じる。教育に関して子供を主体として捉え、子供が自由に考え選択できるような教育、遊び、その他学びに関する選択肢を市には提示して欲しい。</p>	<p>冒頭の「育つこと～サイクルをつくっていきます。」は、子どもに限らず、すべての人が教わったり、教えたりをして共に成長することを表現しています。「2 子育て・教育」では、すべての人が主体的に学び、成長できる環境をつくることを目指しています。</p>
70	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 子どもを学ぶ主体として捉えて欲しい。子どもが育てられる側として書かれているが、あくまで学ぶのは子どもであり、周囲はそれをサポートするという意識でいて欲しい。</p>	<p>「子どもも大人も地域も共に育つ」という意識のもと、子どもも大人も、すべての人を学びの主体として捉えています。</p>
71	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 「経済的な格差や家庭環境によって、未来ある子どもたちの大切な機会が奪われることがないよう、取り組みを進めていきます」という表現はとても大事だと思う。必ず実現しますと言い切してほしい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p> <p>分野別未来像に掲げているものは、いずれも、実現していきたい未来に向けての取り組みを掲げています。</p>
72	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 横須賀市は妊娠、出産や子育てについて有効な施策が多くあるにも関わらず、当事者に情報が届いておらず、十分に活用されていないと感じる。横須賀に住みたいと思う子育て世代を増やすためにも、情報発信とアウトリーチの強化をぜひ明記してほしい。</p>	<p>出産や子育て情報に限らず、必要なタイミングで必要な情報やサービスが行き届くように、取り組みを進めてまいります。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
73	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 横浜川崎といった都内と似た価値観で中学受験ありきの地域とは違う魅力を横須賀は意志を持って作っていく必要があると思う。そのためには豊かな自然を守り、本物を残している地域というだけで価値がグッと上がると思う。そしてその本物の楽しさを伝えることができる人が地域にいるということがすごく豊かだと思う(ネイチャーガイドなど)。そういった自然教育をしてくれる保育園に通わせていますが、教えてくれる人がいて、初めて吸収できる類のものだなと思う。</p>	<p>横須賀の自然環境を生かした教育については、P26 1-②、P48 4-①に記載の通り、取り組んでまいります。</p>
74	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 公園で子供たちが遊びこむことで得られるものは大きく、タブレット教育やプログラミングといったデジタルな教育が子供たちに与えられる一方で、リアルに遊ぶ体験を残したい。そういうところで横須賀は子育て世帯に人気な横浜や川崎などと差別化ができるのではないかと。例えば海洋教育に力をいれるとあるが、海で遊ぶといったことも、継続して積み重ねて初めて楽しさや好奇心に結びつく。週に1度、海の学童を開催するなど、公費を使って子供に自然体験をさせられるような仕組みがあるとすごくいい地域だなという印象がつかうと思う。</p>	<p>ご意見の通り、学校教育のICT環境の整備を進めるとともに、横須賀の地域資源を生かした体験に基づいた教育の重要性については認識しております。その点について、P22未来の物語、P26 1-②、P46未来の物語、P48 4-①などに記載しております。今後も、自然に親しめる場や機会の創出に取り組みます。</p>
75	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 都内から豊かな自然環境を求めて移住したいと思っている人はたくさんいて、人口増するためにはそういう人を取り込んでいければいいと思う。親は、子供を大切にしている自治体に住みたいと思う。だから本当に子供関連の部分は目先の新しさの一步先をいような長期的に魅力のあるものを目指してほしい。子供1人ひとりに寄り添って自由で魅力的な教育や遊ぶ施設を作って行ってほしい。</p>	<p>子育て世代、子どもにとって暮らしやすいまちづくりが必要なこと、また横須賀の自然環境が強みになると認識しています。今後も、魅力的な子育て環境づくりに取り組みます。</p>
76	3	25	<p>「分野別未来像 子育て・教育」 最近全国的に老朽化し閉園するプールが相次いでいるが、馬堀海岸のプールは無くさないでほしい。子育てにおいて子供と思い出を作れるような場所は維持してほしい。</p>	<p>ご意見は、関係部局に申し伝えます。</p>
77	3	26	<p>「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 1-②「三浦半島全体の地域資源を活用した学びの場をつくっていきます」について、横須賀の海をはじめとした豊かな自然資源は移住の際にも好意的に捉えられており、方向性としては好ましく思う。一方で学びの場を「つくる」というのは少し違うような印象も抱いている。すでに学びのための豊かな資源は存在しており、それに触れる機会を社会がどう用意していくかというのが今後より取り組むべき課題なのではないか。</p>	<p>ご意見を受け、「三浦半島全体の地域資源を活用した学びの場をつくっていきます。」を、「三浦半島全体の地域資源を活用した学びの機会・場をつくります。」と修正します。</p>
78	3	26	<p>「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 子育てをする「家庭」をサポートする視点を入れて欲しい。親になるのは皆初めての経験で、子育てで困ることや悩むこともある。親が子育てに関して学べる講座を開くなど、親に対するレクチャーがあると子育てに対する不安も軽減されると考える。</p>	<p>子育てに関する支援については、主に政策方針「2 子どもの健やかな成長を地域で育むまちづくり」に記載しています。この方針をもとに講座の開催等も含め、効果的な支援の検討、実施します。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
79	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 2-④「ICTの導入により、子育て支援サービスの向上だけでなく、保育関係の施設で働く人が、より働きやすくなるようにします。」の文にある、「だけでなく」に違和感がある。 子育て支援サービスの向上と、保育関係施設で働く人のよりよい職場環境の構築を、同列で示すべきではないか。	ご意見を受け 「ICTの導入により、子育て支援サービスの向上だけでなく、保育関係の施設で働く人が、より働きやすくなるようにします。」を、 「ICTの導入により、子育て支援サービスを向上させるとともに、保育関係施設で働く人の、よりよい職場環境の構築を図ります。」と修正します。
80	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 3-①「学校教育の中で、子どもたちが時代や環境の変化に対応するための思考力・行動力を育成します。」という方針には疑問がある。	ここでは、時代や環境の変化が激しい中で、学校教育においても、それに対応するための、思考力、行動力の育成が必要であると考え、示したものです。
81	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 3-①「人生を切り拓く力を育成」するためには、様々な人の人生を知ったり、社会見学や文化体験の充実が大変重要だと思う。家庭の環境や本人の意思意欲に左右されず将来の可能性を広げるためには公教育でのこのような支援が必要不可欠であり、その将来を実現するために、子供も自主的に学習するようになると思う。	学校教育において、社会見学や文化体験等も重要だと認識しており、政策方針でも座学に限らず、そのような活動も想定して記載しています。今後も様々な機会をつくり、子どもたちの人生を切り拓く力の育成に取り組みます。
82	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 金銭的に豊かで十分な学力を持っている子供は、市内外の私立教育に流れ出してしまう傾向があると思う。そのような生徒を横須賀市内で引き止められるような魅力ある教育を行うことはもちろん、経済的に恵まれておらず、学力も飛び抜けているわけではないような生徒の受け皿として、子供の可能性を制限しない公教育を考え抜いて欲しい。	ご意見の通り、様々な角度から、子どもたちにとって魅力ある教育環境を目指します。
83	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 4-③「オンラインの活用」とあるが、「オンライン」は「場」を表し副詞的に使われる言葉なので、「手法」を表すのであれば「インターネットの活用」の方が適切ではないか。	ご意見を受け、 「オンラインの活用など新たな手法を工夫し、」を、 「オンライン展示・講座など新たな手法を取り入れ、」と修正します。
84	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 学生が魅力的に感じるプログラムを企画・実施してほしい。私が中高生だった頃、横須賀市で実施される国際交流のプログラムなどに参加したが、参加する人が固定されてしまったり、内容として物足りなく感じたりすることが多かった。他の地域で行われているプログラムの方が魅力的に感じられて、どんどん市外に出るようになっていった。横須賀には米軍基地があり、外国人の方とコミュニケーションをできる機会があるので、その資源を積極的に活用して、学びの多いプログラムを提供して欲しい。	ご意見の通り、横須賀の地域資源を生かした魅力的なプログラムの企画、実施に取り組みます。
85	3	26	「分野別未来像 子育て・教育 政策方針」 福祉には書いてあるが、子育て教育にも、多様な担い手の育成・参画の推進を記述する。市民が学び担い手になり、さらに研修を受けてスキルアップしていくことも必要。	多様な担い手の参画については、子育て・教育全体で意識して記載しているところです。ご意見は、今後の子育て・教育施策の検討において参考にさせていただきます。
86	3	27	「分野別未来像 健康・医療」 「健康がすぐそばにあるまち」は「健康でいられるまち」、「医療がすぐそばにあるまち」のほうが良いと思う。	市民の皆様が、健康でいられるよう、医療をすぐに提供するという、行政の役割に合わせて、市民の皆様が健康というものを意識しながら生活していただくことが、重要であるという趣旨のもと「健康がすぐそばにあるまち」と表現しています。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
87	3	27～28	「分野別未来像 健康・医療」 コロナ禍で露呈したいま社会の脆弱性の一つが保健所体制と医療体制ではなかったか。福祉にも言えることだが、人材の確保、ケア労働の専門性を尊重するとともに待遇の大幅改善は必須だと思う。	貴重なご意見として承ります。
88	3	28	「分野別未来像 健康・医療 政策方針」 4-②は、「いつまでも地域で安心して暮らせる」ための政策をするものであり、新しい技術ありきではないと思います。	新しい技術の活用は手段であり、安心して暮らせる医療体制をつくるのが目的です。その目的に至る過程で、新しい技術を活用し、人は人しかできない対面型のケアに集中できるようにしていきます。
89	3	30	「未来の物語 まち」 「東京のマンションから引っ越して～」や、「東京にはない豊かな自然環境～」は東京という、具体的な大都会と比べる表記は使わないほうが良いと感じる。横須賀市は一人当たりの公園面積広さは県内一位で大きな敷地の公園もあり、海までの移動距離も近く、豊かな自然環境と言える。しかし、東京23区にも、駅前にザリガニ釣りのできる緑地、駅から徒歩圏の川など、車移動のできない小中高生が気軽に自然と触れ合う環境があり、その事実を知ると「東京にはない」という表記は誤りとも受け取られるのではないかと。	ご意見を受け、「東京にはない豊かな自然環境」を、「都心にはない豊かな自然環境」と修正します。
90	3	31	「分野別未来像 コミュニティ」 「多様性が生む、新たな地域の力」の項目にも、政策方針にあるように、差別を許さない、人権、平和、ジェンダー平等など国際社会の共通の価値観を示すべきだ。	政策方針に示されていることにしっかりと取り組むことにより、「多様性が生む、新たな地域の力」の項目に示されている未来を実現させていきたいと考えています。
91	3	32	「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 政策方針1「いきいきと暮らせる横須賀らしい地域づくり」であるが、内容と表題があっていないと感じる。「いきいきと暮らせる横須賀らしい地域づくり」を現行の基本計画でも使われている言葉ではあるが、「平和と人権を尊重する誰にも開かれたまちづくり」がしっくりくると思うのがどうか。	ご意見を受け、1-①は平和について、1-②は寛容な社会づくりについて、の内容を記していることから、「1 いきいきと暮らせる横須賀らしい地域づくり」を、「1 平和で寛容な社会づくりの推進」と修正します。
92	3	32	「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 1-②「人権が尊重され、お互いを認め合い、共に生きる寛容な社会をつくっていきます。これにより、ジェンダー平等など、誰もが当たり前に分らしく生きられるまち、地域・社会で活躍することができるまち、つながることができるまちづくりを進めます。」とあるが、「寛容な社会をつくる」ことにより「まちづくりを進める」という表現に重複間と違和感がある。「寛容な社会をつくる」ことにより、「まちを目指す」という構成にしてはどうか。	ご意見を受け、「～つながることができるまちづくりを進めます。」を、「～つながることができるまちを目指します。」と修正します。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
93	3	32	<p>「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 現状の地域コミュニティの担い手は、仕事からリタイアした世代が多いと思われるが、今後、高齢になっても仕事を続ける人が増えていくことを踏まえると、今後10年で地域活動の担い手はどんどん減っていくのではないかと。</p> <p>計画全体を通じて、市民一人ひとりに、地域のプレーヤーとしての役割を担ってもらいたいという意思を感じるが、担い手不足に対応するための方針として、「3-②担い手育成と、ネットワークづくり」だけというのは不足ではないか。「2-①町内会・自治会や市民公益活動団体などへの支援」についても言及があるので、働いていても、それほど負担なく地域社会に参画できるような環境づくりをすることを、もう少し強調してはどうか。また効率化も必要で、例えば、地域に既存でお願いしている事業の効率化や負担軽減などに触れてはどうか。</p>	<p>地域の担い手の減少に対する危機感、市民一人ひとりに地域のプレーヤーとしての役割を担ってもらいたいという意図に関してはご意見の通りです。</p> <p>また、働いていても地域社会に参画できる環境づくり、地域の負担軽減が重要な課題であるとも認識しています。</p> <p>それらの課題については、2-③「新たなコミュニティ形態の構築」、3-①「先端技術も活用し、参加しやすい、参加したくなる環境づくり」、3-③「地域活動を支える仕組みづくりの検討」においても、意識した上で記載しています。</p>
94	3	32	<p>「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 1-①「核兵器廃絶・平和都市宣言」、「恒久平和」1-②人権が尊重され、お互いを認め合い～をトップページに掲げて欲しい。</p>	<p>政策方針1に示したとおり、市の重要な政策の一つとして取り組んでまいります。</p>
95	3	32	<p>「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 地域運営協議会・地域ささえあい協議会、地区社会福祉協議会、連合町内会など、同一の地域の方が複数の会議にかかわっているようだが、実行力という点で課題があると思う。同一のコミュニティ内の分野別の部会と捉えもう少し整理してはどうか。</p>	<p>今後のコミュニティ施策の検討において参考とさせていただきます。</p>
96	3	32	<p>「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 本庁地区にコミュニティの単位は大きなままで、小学校さえ割ってしまうような海辺ニュータウン地域運営協議会ができてしまったりしていることはいかがなものか。</p>	
97	3	32	<p>「分野別未来像 コミュニティ 政策方針」 横須賀は自然や公園も多く、犬などペットと暮らしやすい街である。ドッグオーナーはコミュニティを形成しやすく、市に根付いて人口の社会増にも繋がると思うので、「犬と暮らしやすい街」などの方向性を取り入れた市の魅力のアピールもぜひ検討して欲しい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
98	3	33	<p>「分野別未来像 防災・安全」 災害でより影響を受ける弱い立場にある人への配慮が足りないのも、その点を意識していると明記してほしい。</p> <p>地震発生時に女性のプライバシーや生理など女性特有の問題に対する配慮が足りないなどの問題が、近年大きな地震を経験した地域で起きていた。女性に限らず、障がいを持っている人や所得が低い人、高齢の人など弱い立場に置かれる人々が災害の影響を強く受けるという点に配慮する必要がある。安心・安全なまちだと思って暮らせるように、その点をしっかり意識していることを明記して欲しい。</p>	<p>災害に限らず、防災・安全の分野においては、様々な立場の人々に配慮していくことは大変重要であると認識しています。</p> <p>その上で、具体的な災害時における要配慮者への記述に関しては、分野別計画である地域防災計画の「要配慮者対策の推進」の項目に記載しています。</p> <p>また、女性に関する記述も、同計画の「男女共同参画の推進」の項目に記載するとともに、震災時避難所運営マニュアルにも、「女性避難者のニーズに対応するため、女性役員も選任することが望ましい」と記載しています。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
99	3	33	「分野別未来像 防災・安全」 横須賀に多い土砂災害や急傾斜地の対策について明記がほしい。土砂災害、急傾斜地の対策は、横須賀の地形特有の問題で、最近頻発しているのもっと対策に前向きになる必要があるのではないか。	ご意見を受け 「横須賀市は、都市基盤や、都市構造を整備・強化するだけでなく、」を、 「横須賀市は、地勢的特徴を踏まえて、都市基盤や都市構造の整備・強化を推進するとともに、」と修正します。
100	3	33	「分野別未来像 防災・安全」 本市は、土砂災害危険区域・急傾斜地崩壊区域が多数ある。この事実＝制約があることを明記し、それに対する対策を行うと記載すること。本市の特徴であり、避けて通ることのできない課題である。	
101	3	34	「分野別未来像 防災・安全 政策方針」 3は、分野別未来像の構成が災害に強い都市基盤、都市構造の整備・強化が先にあり、防災拠点作りの順になっているので、ここも「公助、共助、自助」の順の方がよい。 また、近助が新たに入ったが共助と何が違うのか。あまり複雑にしない方がいいと思う。	「自助・共助・公助」は、防災分野で災害発生直後からの動きをふまえ、この順番になっており、それを反映させています。 また、近助は、「自分たちのまちは自分たちで守る」との認識で自主防災組織が取り組む共助とは異なり、より身近な範囲、向こう三軒両隣で助け合うもので、この精神は非常に大切であると考え、記載しています。
102	3	34	「分野別未来像 防災・安全 政策方針」 3-①で、ICT 技術を活用して行いたいものが、自助の強化なのか、近助、共助の促進なのか不明瞭であるので、記載内容の変更を検討してはどうか。	ご意見を受け、 「災害や犯罪に強いまちにするため、ICT 技術も活用し、「自助」に加え、近所の人で助け合う「近助」や、地域で助け合う「共助」を促進します。」を、 「災害や犯罪に強いまちにするため、先端技術も活用し、「自助」の強化を図るとともに、近所の人で助け合う「近助」や、地域で助け合う「共助」を促進します。」と修正します。
103	3	34	「分野別未来像 防災・安全」 災害発生時の対応ガイドラインを迅速に策定するなど、災害や緊急時のイベント開催可否の判断を適切にできる体制を整えてほしい。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、昨年度から横須賀市で開催される予定であった数々のイベントが中止または延期されている。新型コロナウイルス感染症の感染リスクは常に0ではない。 しかし、厚生労働省が公表している「新しい生活様式」の元では、イベント参加等の際には「接触確認アプリの活用を」「発熱や風邪の症状がある場合は参加しない」などのルールを設定している。逆に考えれば、そのような対策を講じた上でリスクを低減し、イベントを開催するという余地は残されているということである。リスク0ではないことを理由にして全てのイベントを取りやめることは、横須賀の観光基盤の充実に反する。 意見者自身、「タウンニュース」で横須賀市観光協会が歴史探訪バスツアーを企画・開催すると知りぜひ参加しようとしたのだが、HPに緊急事態宣言のため中止になった旨が記載されており、大変残念に思った。横須賀市民として横須賀の歴史や観光スポットについて学ぶ機会が、このように失われるのは非常にもったいないと思う。 以上から、災害時や緊急時にも対応するレジリエントなルール設定を迅速に行い、イベント開催可否を丁寧に判断する体制を整えることが必要だと考える。	災害発生時の対応として、市に所属する各部署は地域防災計画に基づき、活動細部計画を作成しており、事前の防災対策をしています。 また、緊急時のイベント開催可否の判断については、その時々々の状況や、イベントの性質に合わせて、参加者の皆様の安全と安心をまず第一に考え、柔軟に、丁寧に判断を行ってまいります。

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
104	3	34	<p>「分野別未来像 防災・安全 政策方針」 1-①について、「～BCPの策定を進め、電源確保のためにエネルギー供給の多重化を目指します。」とすることを提案する。 いかなる状況下であっても機能する行政体制を構築する上で、エネルギー(電源)の多重化。確保によるエネルギーセキュリティの向上に資する設備導入が必要と考える。 中圧ガス導管は、耐震性に優れた溶接鋼管を採用しており、阪神・淡路大震災や東日本震災でも、高い耐久性が発揮されました。東京ガスの高圧。中圧ガス導管は災害時においても原則として都市ガスの供給を停止しないものとなっている。 また、2019年の台風19号による風水害では、各地で広域停電が発生しましたが、都市ガスについては安定供給力弊断売されていました。行政施設や医療機関等は、いざという時に機能停止になることを最大限回避する必要があります。 「減災や早期復旧を推進する」という観点から、災害発生等非常時の電源確保は最重要課題の一つである。なお、重油や灯油、夜化石油ガスなどの備蓄燃料は当面のストックとしては役立ちますが、備蓄が途絶えた際に配送面で交通事情の影響を受けることになる。また、非常用発電機は、あくまで非常時の用に供する仕様となっている為、長時間運転には向いておらず、停電が長期に渡った場合に運転停止のリスクがあります。これらの非常用発電機のデメリットを補完するものとして、防災負荷の他に保安負荷への給電機能を担う停電対応機能付で高効率な自立分散型電源の導入推進が必要と考えます。</p>	<p>災害が起こった時に、経済活動や行政活動などを維持していくために、「災害に強いライフライン、都市施設、市街地の整備とBCPの策定を進める」のが方針であり、「電源確保のためにエネルギー供給の多重化を目指す」ことだけではないと考えます。 なお、分野別計画である地域防災計画で、水道施設や下水道施設とともに、電力施設、都市ガス施設、通信サービス施設の対策について記載しています。</p>
105	3	35～36	<p>「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 持続可能な社会づくりのため、エネルギー消費の少ないまちづくりの観点も必要になると思う。</p>	<p>省エネルギーへの取り組みについては、「環境」の分野別未来像で示しています。</p>
106	3	35	<p>「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 コンパクトシティの視点を冒頭掲げておきながら谷戸地域への自動運行等新しいモビリティの活用という形でインフラ拡張を語るの矛盾しており、姿勢が一貫していないのではないかと。</p>	<p>「地域に応じた個性ある交通環境」では、「誰もが自由に移動できるまち」を未来像として示しているもので、インフラ拡張を示してはいるものではありません。コンパクトシティの観点はもちながら、まちづくりを進めていきますが、市民の皆様の利便性の向上から、移動の自由は目指していきます。</p>
107	3	35	<p>「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 リモート化すれば横須賀を選んでもらえるという前提を持たず、リモート化をチャンスにするための施策を講じると明記してほしい。「いくつもの暮らし方がある横須賀」とあるが、私や私が話を聞いた周囲の人の暮らしはこれらのどれにも当てはまらず、現実とは離れているように認識されてしまう。また、リモート化したら横須賀が選ばれるとは限らないし、選ばれるためには地方と比べて横須賀を選ぶ魅力がないといけないので、そのためには施策を講じる必要があると思う。</p>	<p>ご意見の通り、リモートワークの普及はあくまでチャンスで、その機会を生かさなければならぬという認識です。「いくつもの暮らし方がある横須賀」は、住環境が重視されるようになる中で、これらの横須賀のポテンシャルを生かし、今までで以上にこのような暮らしを提供していくという考えです。また、定住については、都市基盤・まちづくりだけではなく、全分野を通して、魅力の向上に取り組めます。</p>
108	3	35	<p>「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 人口減少が避けられない状況、これをまちづくりにどう生かすか。公共交通体系の整備をすすめれば広域幹線道路整備計画の見直しが可能だと思ふ。</p>	<p>今後の交通施策の検討において参考とさせていただきます。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
109	3	35	「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 「急な坂や階段などの地形的特徴や、高齢化による移動の課題を克服する新しいモビリティの活用の支援を行うことで、誰もが自由に移動できるまちを目指す」とあるが、車椅子で移動する人やベビーカーを押している人など、移動の課題を持つ人はそれ以外にもいる。その視点を含めて記載して欲しい。	ご意見を受け、 「高齢化による移動の課題」を、 「高齢化などによる移動の課題」と修正します。
110	3	35	「分野別未来像 都市基盤・まちづくり」 国際情勢の推移を見極めるという受け身の姿勢ではなく、外交努力による国際紛争の平和的解決や「核抑止力依存」の政府の姿勢を改めるよう国に要請し、核空母の母港返上、米軍基地の返還を求めるべきである。	貴重なご意見として承ります。
111	3	36	「分野別未来像 都市基盤・まちづくり 政策方針」 人口減少が進むのが明らかな状況の中で、4-②にあるようにインフラのサービスレベルを維持・向上を図っていくために、ICT・AIを積極的に活用するという対処療法だけではなく、住んではならないエリアと、住んでいいエリアと、用途地域にとらわれず、ある程度強制力を持って誘導していくことが必要だと思うが、それを政策方針案に示すべきではないか。	住んでいいエリアと住んではならないエリアを、強制力を持って誘導していくことを政策方針案に示すことは、現時点では考えていません。 しかし、生活サービス機能や居住機能の集積を図るコンパクトシティの観点については、「1拠点ネットワーク型都市づくりの推進」に示しております。
112	3	36	「分野別未来像 都市基盤・まちづくり 政策方針」 子育て世代等呼び込む施策として、空き家を活用した住宅供給やコミュニティづくりをすすめることを明記してはどうか。	今後の住宅施策、コミュニティ施策の検討において参考とさせていただきます。
113	3	39	「分野別未来像 産業振興」 「失敗を恐れない挑戦者を応援するまち」とあるが、失敗を恐れないような人は横須賀市にいたって挑戦をどんどんしていくので、産業振興政策が横須賀という場所での挑戦を促す目的を持っているのであればあまり意味がある方針とは言えないと思う。むしろ失敗したとしても次の機会があるという姿勢をこの項目の中で打ち出していくことが、他の地域ではなく横須賀で挑戦しようと思ってもらえることにつながるのではないか。	挑戦者というのは、挑戦をする場所として新たに横須賀を選ぶ人、すでに横須賀にいて新しく挑戦しようとする人の両方を想定しています。その両者にとって、挑戦のハードルを下げるのが、繰り返し挑戦することにつながると思います。
114	3	39	「分野別未来像 産業振興」 精神的な豊かさを大切にするとっても、綺麗ごとだけでは解決できず、最低限の物質的豊かさは必要だと思う。その意味で、「稼げる自治体」の考えは必要であると考えます。かのチャップリンも、幸せな人生には「勇気、想像力、そして少しのお金が必要」と言っている。具体的にどのような形で稼げる自治体を目指すのか教えて欲しい。	「稼げる自治体」とは、新たなビジネスの創造や、受け入れ環境を整えることで、主に民間の企業や投資を呼び込むことです。 それにより、税収の増加や雇用を生むことで、住民の暮らしの向上を図ることを目的としています。 この考えについては、ページ下部に解説を記載します。
115	3	39	「分野別未来像 産業振興」 稼げる自治体という言葉がよくわかりません。自治体の本旨は住民福祉の向上です。 企業は利潤と利益を出すのが目的であり、乱開発などが行われてきた結果、環境破壊へとつながってしまいました。なぜ自治体が稼げるようにしないといけないのか。p3では新たな社会システムへの転換とうたっているのに理解できません。	

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
116	3	39	<p>「分野別未来像 産業振興」 「稼げる自治体」という表現に強く違和感を覚えるので取り消して欲しい。住民の暮らしを1番に考えるべき行政が、ビジネスなどを呼び込んで利用することによって「稼ぐ」というのは本質から間違っており、若者の感覚からすると卑しいとも思える。何度か指摘があったのではないかと思うが、今一度、8年後まで残る計画として正しい目標設定と言葉の選択なのか議論を尽くしてほしい。</p>	<p>「稼げる自治体」とは、新たなビジネスの創造や、受け入れ環境を整えることで、主に民間の企業や投資を呼び込むことです。 それにより、税収の増加や雇用を生むことで、住民の暮らしの向上を図ることを目的としています。 この考えについては、ページ下部に解説を記載します。</p>
117	3	39	<p>「分野別未来像 産業振興」 「稼げる自治体」へ向け進んでいきます。とありますが、どこかの自治体が稼げたら他の自治体はその分の稼ぎ分が少なくなるのが摂理です。人口の取り合いや企業誘致合戦など、自治体間の競争の時代は終わり、独自策が求められているはず。これからは、あえて「稼がない自治体」がクローズアップされるのではないのでしょうか。または「時間が稼げる自治体」なども、ユニークです。</p>	<p>他の自治体との稼ぎの取り合いをすることを目的とはしていません。 「稼げる自治体」とは、新たなビジネスの創造や、受け入れ環境を整えることで、主に民間の企業や投資を呼び込むことです。 それにより、税収の増加や雇用を生むことで、住民の暮らしの向上を図ることを目的としています。</p>
118	3	39～40	<p>「分野別未来像 産業振興」 脱炭素社会への移行は新しい産業のチャンスでもあるといわれる。自動車産業もガソリン車からEVへと急速に切り替わっていく。再エネ・省エネの産業振興に力を入れるべきである。 その際に石炭火力は日本製品を輸出する際に足かせになる可能性がある。RE100を宣言している企業が世界でも日本でも増加しており、その企業は日本の部品製造企業にもRE100を求めることになるからである。石炭火力は地球温暖化を促進する温室効果ガスを最も多く排出する点でも問題であるが、日本と横須賀の産業にとっても大きな問題である。</p>	<p>今後の産業振興施策の検討において参考とさせていただきます。</p>
119	3	40	<p>「分野別未来像 産業振興 政策方針」 産業振興について。まずは農業と漁業など第1次産業の安定経営と活性化を目指すのが先だと思います。異常気象の時代、安定した食料自給は国家として何よりも優先すべき政策です。</p>	<p>農業、漁業の安定経営と活性化に向けては、「5 魅力あふれる農水産業の振興と付加価値向上への取り組み」に生産性や、付加価値の向上を目指した政策方針を示しています。</p>
120	3	40	<p>「分野別未来像 産業振興 政策方針」 1-①にある「デジタルトランスフォーメーション」は、企業が自らの事業をデジタル技術をベースにした新しい形に変えて、新しい価値を生み出すといったニュアンスで、行政が働きかけて導入するものではなく、表現としてそぐわないと思う。「既存事業者におけるDXを推進し、」等の方がよいのではないか。</p>	<p>ご意見を受け、「既存事業者のデジタルトランスフォーメーション導入等による事業の効率化や新ビジネスへの取り組みを促し」を、「既存事業者のデジタルトランスフォーメーション等による事業の効率化や新ビジネスへの取り組みを促し」と修正します。</p>
121	3	40	<p>「分野別未来像 産業振興 政策方針」 1-②「企業立地のための環境整備等を行い、企業の誘致を図るとともに、進出した企業の周りに他の企業が集まること、既存企業と進出企業とのつながりから新たなビジネスが生まれることを促します。」は、何度読んでも理解が困難である。どこかで文を区切って、文章の構成を変えた方がよい。</p>	<p>ご意見を受け、「企業立地のための環境整備等を行い、企業の誘致を図るとともに、進出した企業の周りに他の企業が集まること、既存企業と進出企業とのつながりから新たなビジネスが生まれることを促します。」を、「企業立地のための環境整備等を行い、企業の誘致を図ります。また、進出した企業の周りに他の企業が集まること、既存企業と進出企業とのつながりから新たなビジネスが生まれることを促します。」と修正します。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
122	3	40	<p>「分野別未来像 産業振興 政策方針」 3-①「Society5.0時代」を目前に控え、多くの研究開発機関が集積している横須賀のポテンシャルを生かし、既存企業の優れた技術力とそれらの機関との連携や、事業者の参入や起業を促し、新たな研究開発・製品開発等を支援します。」は、ポテンシャルを生かして、連携や、参入、起業を促した結果、「支援します。」という言葉になることに違和感がある。文章の再構成を検討して欲しい。</p>	<p>ご意見を受け、「Society5.0時代」を目前に控え、多くの研究開発機関が集積している横須賀のポテンシャルを生かし、既存企業の優れた技術力とそれらの機関との連携や、事業者の参入や起業を促し、新たな研究開発・製品開発等を支援します。」を、「Society5.0時代」を目前に控え、多くの研究開発機関が集積している横須賀のポテンシャルを生かし、既存企業の優れた技術力とそれら機関との連携、事業者の参入、起業を促し、新たな研究開発・製品開発等につなげます。」と修正します。</p>
123	3	41	<p>「分野別未来像 観光・文化」 観光・文化の「ワクワクがあふれ出す」は「期待」や「魅力」の方が良いと思う。</p>	<p>観光・文化の分野では、横須賀市の地域資源を生かしながら、市内外の人に高揚感を持っていただくことを目標にしています。その、高揚感を表すの言葉として、「ワクワク」という表現を用いています。</p>
124	3	41	<p>「分野別未来像 観光・文化」 観光や文化はターゲットの設定が効果の高い施策にとって必要不可欠であるにも関わらず、どのような人をターゲットにした事業なのかかわからないものが多く目標、目的が不明確である。ペルソナマーケティング、カスタマージャーニーマップの作成など、ターゲットを定めて観光施策を実施する意識を盛り込むべきだと思う。</p>	<p>観光・文化の分野では、特にターゲットを明確にしておくことなどが重要であることは、ご意見の通りだと考え、その意味も含めて、「社会情勢やトレンドを捉え、ブランディングや発信を行う。」と示しています。具体的な施策立案の際にも、その視点を持って取り組みます。</p>
125	3	41～42	<p>「分野別未来像 観光・文化」 米軍基地も観光資源をしてきたが、こういう表現がないのが大変良い。 ただ、観光に頼りすぎると横須賀の自然やまちが荒れるので、気をつけてもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
126	3	42	<p>「分野別未来像 観光・文化 政策方針」 1-①で示す、地域資源のストーリー化の際に、軍事を美化しないようにしてほしい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
127	3	42	<p>「分野別未来像 観光・文化 政策方針」 昨今、観光を市が主体となって積極的に行ってきて、テレビにも取り上げられることも多くなってきていると思う。しかし、市が観光から手を引いたら、そこで終わりにになってしまうことを危惧している。それを防ぐためにも、いつまでも市が主体でなく、民間を主体としていく仕掛けづくりについて、政策方針に明記すべきではないか。2-②にある「連携」という表現だけでは弱いと考える。</p>	<p>観光の推進については、事業者、関連団体、市民、市のすべてが、事業の主体だと考えています。また、事業を発展させるためには、それぞれが役割を務め、連携を継続していくことが不可欠です。ご意見のとおり、事業が不必要に終わることを避けるために、連携を継続してまいります。そのため、主体を民間事業者に限定せず、「連携」という表現を用いています。</p>
128	3	43～44	<p>「分野別未来像 海洋」 マリンスポーツ・マリンレジャーと水産業は競合する部分があると思う。派手な方に傾きがちだが、食糧自給率向上の観点からも水産業の衰退を招かないようにしてもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
129	3	44	<p>「分野別未来像 海洋 政策方針」 学校も海洋教育に取り組む主体として明記してほしい。文化的感度の高い家庭環境に恵まれた子どもだけが、プログラムを見つけ出し希望制で参加するのではなく、学校の授業内で環境教育、海洋教育に取り組み、誰もが参加するのが大事ではないか。</p>	<p>政策方針4-①に記載のとおり、市民や関係団体等と協力し、海洋ごみ削減に向けた対策や環境教育、海洋教育に取り組みます。</p>

No.	意見		市の考え方	
	意見の概要			
	該当箇所 章	頁		
130	3	47～48	<p>「分野別未来像 環境」 「脱炭素型社会への移行をめざす」とあるが脱炭素型社会への転換は必須の課題である。 8月9日にIPCCの第6次報告書が発表され、人間の活動が地球温暖化に与える影響について「疑う余地がない」と初めて断言したと報道された。 事業者はゼロエミッション火力などと言っているようだが、新しい技術開発が必要であり、実現の確実性にも乏しいと言われる。再エネ導入などいままある技術で2030年までの石炭火力の全廃は可能であり、できることから始めることが必要である。 2030年目標を明記するとともに、いま建設中の石炭火力に対して市の対応を明記してもらいたい。私としては上記のような事情にあるので中止を求めている。</p>	<p>個別の事業活動の内容について、市の計画に明記することはなじまないと考えます。 本市としては、石炭火力発電所についての是非を決める権限を持っていませんが、今後も、環境への影響をできる限り少なくする対策や、環境配慮への取り組みを求めていきたいと考えています。</p>
131	3	47～48	<p>「分野別未来像 環境」 いつも釣りをして楽しいので釣りをできる場所を守ってほしい、作ってほしい。公園がもっと山の中にあつたらいい。遊具も楽しいけど、山の中の公園や池や川のあるところで楽しく遊びたい。</p>	<p>いつも公園をご利用いただきありがとうございます。 いただいたご意見は、今後の公園づくりの参考にします。</p>
132	3	48	<p>「分野別未来像 環境 政策方針」 石炭火力発電所の速やかな廃止と、再生可能エネルギーの推進を記載する必要がある。</p>	<p>再生可能エネルギーの推進は、2-①で「家庭や事業所などでの再生可能エネルギーの使用～を促し」と示しています。 「石炭火力発電所の廃止」といった、その産業全体に対する方針を、市の計画に示すことはなじまないと考えます。</p>
133	3	48	<p>「分野別未来像 環境 政策方針」 公園について決め事をする際に、実際の利用者や子供の意見も聞いて反映してほしい。知り合いの小学生や中学生に話を聞いたところ、ボールを使ってはいけないとか、野球のバットを振ってはいけないとか、硬いボールを使ってはいけないなどルールが多すぎて公園を利用する際に不便だという。また、それらのルールは自分たちがいないところで決められてしまうので、公園を利用する側の意見を聞いて欲しいと言っていた。また、地域の野球のチームが公園で活動できることは、コミュニティ強化にも繋がることなので、もっと柔軟に使用ルールを決められるようにしてほしい。</p>	<p>地域ごとに様々異なる状況がある中、今後策定する「公園の整備と管理の方針」に基づき、地域や利用者の意見を聞きながら、今後の公園管理のあり方の検討を進めさせていただきます。</p>
134	3	48	<p>「分野別未来像 環境 政策方針」 〇〇禁止といった看板だらけの公園で楽しく遊べる子供はいないと思う。子供の遊びを地域で守っていく必要のある時代ではないか。</p>	
135	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 「今より少ない職員でも、より市民と向き合い」とあるが、当面はむしろ職員数を増やすことが求められるのではないかと。</p>	<p>ここでは、今より少ない職員でも、デジタルガバメントによって、より市民と向き合うことができるようにして、サービスの質を向上させていく姿勢を示しています。</p>

No.	意見		市の考え方
	意見の概要		
	該当箇所 章	頁	
136	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 人口減少、それに伴う税収の減少が明らかであり、このままでは、公共施設やインフラの維持ができないことを明記すべきではないか。また、施設の廃止についても示すべきではないか。</p> <p>ご意見の部分については、「超高効率で健全な行財政運営を行う自治体であること。」の中の「徹底した行財政改革を行い、安定した財政基盤を確立し、持続可能な行財政運営を行います。」「公共施設については限られた財源の中、需要に応じた適正な規模にしていきます。」という部分で市の姿勢を示しています。 具体的な施設の統廃合の方針については、分野別計画であるFM戦略プラン等に示しています。</p>
137	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 自治体間の連携は、三浦半島の4市1町に限らず必要なことなので、具体的な表現は不要ではないか。</p> <p>ご意見のとおり、自治体間の連携は、三浦半島の4市1町に限らず必要なことであると認識しておりますが、ここでは、一例として三浦半島の4市1町を示しています。</p>
138	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 「変化を恐れぬスピード集団であること」とあるが、最近フェリー問題やコロナ禍での消防署員削減など、市政の失敗もあった。速さの中にも省いてはいけないものもある。そのような表現にしてほしい。</p> <p>業務執行にあたっては、「多様なニーズ」を把握し、「市民に寄り添う」ことを意識した上で、スピード感をもって進んでいくことを示しており、適切な表現であると考えます。</p>
139	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 超高効率だとか、変化を恐れぬなど現実離れの言葉が目立つ。 未来像と言っても2030年であり、もっと堅実に地方自治法にもあるように住民福祉の向上が自治体の第一の仕事であるのでそのことはしっかりと記述してもらいたい。 遅くていいというわけではないが、スピード感だけでは朝令暮改を招く。堅実性も大事。合意形成や熟慮することが軽視されないか心配になる。「スピード集団」というのは乱暴すぎるのではないか、「待てよ。と疑問に感じたことを率直に言える集団」の方が信頼が置けると思う。 全体として、市政の主人公は市民であることが読み取れない。</p> <p>ここでは、このビジョンで描かれた未来像を実現するために、横須賀市役所がどのような組織を目指しているかを示しています。 その中では、業務執行にあたっては、「多様なニーズ」を把握し、「市民に寄り添う」ことを意識した上で、スピード感をもって進んでいくことを示しており、適切な表現であると考えます。</p>
140	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 超高効率とは、何か。下段に「～無駄な仕事を一切取り除き～」とあるが、仕事にはある程度のゆとりがないと、対応が画一的になるおそれがある。ハンドルで言うと「遊び」の部分。 これが不足すると組織としても余裕がなく、突発的な事態に対して臨機応変に動けなくなる。「スピード集団」という表現を用いるならば、なおさらである。安定した市政運営が出来るのが、不明である。</p> <p>「超高効率」とは、デジタルガバメントを推進し、業務の効率化を図ることで、今より少ない職員でも、より市民と向き合うことができるようにして、サービスの質を向上させることを指しています。 「仕事にはある程度のゆとりがないと、対応が画一的になる。組織としても余裕が突発的な事態に対して臨機応変に動けなくなる」という部分については、貴重なご意見として承ります。</p>
141	4	50	<p>「市政運営の基本姿勢」 「市民を紙の申請書類や窓口での手続きから解放」とあるが、職員の意識改革には有効な面もあるかもしれないが、市民の安心感には寄り添ってほしい。</p> <p>市民の皆様へ寄り添うことを意識しながら業務を行っていきます。</p>

No.	意見		市の考え方
	意見の概要		
	該当箇所 章	頁	
142	その他	-	<p>そもそも論になるが、この計画は法律で作らなければならないと決まっているのか。この計画にかけている人件費や労力は無駄にはならないのか。</p> <p>平成23年の地方自治法改正により、まちづくりの基本的な方向性を示す、基本構想の策定の義務付けは廃止されています。</p> <p>しかし、急速に進む人口減少や少子高齢化、様々な分野でのテクノロジーの劇的な進歩、新型コロナウイルスの影響など、変化の激しい時代であるからこそ、長期的な視点に立った社会変化を見通し、地域の現状を踏まえた上で、横須賀の目指す未来像や、そこに向かって進む方向性を示すものとして、基本構想・基本計画の必要性はより高まっていると認識しています。</p> <p>今後も、この計画を見てもらう、意識してもらうために、デザインや、周知の方法などについて、形式に拘らず工夫を凝らし、希望ある豊かな横須賀を目指し、市民、事業者、行政等が一丸となって、この荒波の中を進んでいくために、共有できるものにしていきたいと考えています。</p>
143	その他	-	<p>1章「市の未来像」と2章「2030年の展望」を入れ替えた方がわかりやすいのではないかと考えています。</p> <p>より市民に見てもらおう計画とするためには、最初に市の未来像や根底に流れる思いを示した後に、そのバックデータを示す構成が、適切であるとと考えています。</p>
144	その他	-	<p>パブリック・コメントや広く一般市民に知って欲しい活動などは、LINEでお知らせするとよい。</p> <p>今後の情報発信の検討において参考にさせていただきます。</p>
145	その他	-	<p>計画の構成イメージの掲載が、唐突感があるので配置を検討してほしい。</p> <p>ご意見は、今後の冊子のデザインの検討において参考にさせていただきます。</p>
146	その他	-	<p>市長のコメントは入るのか。入れるのであれば、巻頭では未来像や根底に流れる思いとの重複感があるので、巻末の方が、計画のおさらいにもなりいいのではないかと考えています。</p> <p>ご意見は、今後の冊子の構成の検討において参考にさせていただきます。</p>
147	その他	-	<p>概要版は作成するのか。作成するのであれば、単なる内容の圧縮版ではなく、一工夫してインパクトのある、いい意味で行政らしくないものにしてもらいたい。また、市民全員は現実的に無理だと思うが、できる限り目にできるよう、ホームページへの載せ方も工夫してもらいたい。</p> <p>ご意見は、概要版の作成や、周知方法の検討において参考にさせていただきます。</p>